

ナスミバエの防除対策とまん延防止について

昨年 12 月、沖縄本島において重要害虫であるナスミバエの発生が確認されました。現在、本虫は、沖縄本島以外の地域での発生は、確認されていません。

本虫は、一旦発生すると防除が困難であるため、発生が確認された沖縄本島では、ナス科作物を栽培する際には、下記のとおり防除対策を行い、被害防止や発生拡大防止に努めてください。また、発生が確認されていない地域では、発生地からナス科植物や被害果実等を持ち込まないように注意しましょう。

1. 被害の発生状況

- ① ナス科植物（ナス、ピーマン、シマトウガラシ、トマト、テリミノイヌホオズキ等）を主に加害する（平成 22 年 3 月、4 月病害虫防除技術センター発行ミバエ類寄主植物調査ハンドブック 68～86 ページ参照）。幼虫に寄生された果実は食害により腐敗する（図 1 ナス）。シマトウガラシやテリミノイヌホオズキでは果実が水浸状となる（図 1）。
- ② 被害果実は、外見からは注意して観察しないと健全果実または他の病害虫の被害と区別は困難である。

2. ナスミバエの特徴と発生生態

- ① 成虫は体長約 7 mm でミカンコミバエに似るが翅の先端に黒点があり、腹部全体は茶色がかっている（図 2 左）。幼虫は体長 7～9 mm で乳白色・黄白色である（図 2 中）。
- ② 年間世代数はおよそ 7 世代である。雌成虫は果実内部に産卵管を挿入し産卵する。幼虫は果実内部を食害する。老熟幼虫は果実から脱出後、地中で蛹化（図 2 右）する。



ナス果実の内部腐敗



シマトウガラシ

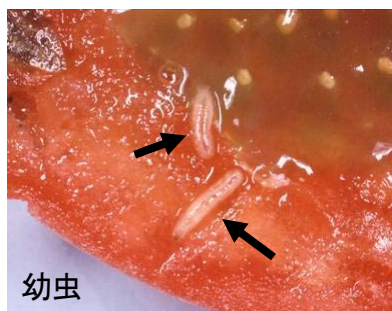


テリミノイヌホオズキ

図1 ナスミバエによるナス科植物果実の被害



成虫(雄)



幼虫



蛹

図2 ナスミバエの形態

3. 防除対策

本種は、農薬による防除が困難であるため、袋かけや網掛けなどによる隔離栽培を基本とした発生防止および被害回避に努める。

- ① ナス科野菜(ナス、トマト、ピーマン等)栽培施設の出入口は二重カーテンを設置し、完全に閉じておく。ビニール、ネットの破れ等破損部分は直ちに修理する。
- ② 防虫ネットは目合い1.6mm以下を使用する。
- ③ 露地栽培では防虫ネット(1.6mm以下)で被覆するか、果実に袋かけをする。
- ④ 落下果実や果実残渣はビニール袋に1カ月ほど密封処理(図3)するか、焼却する。
- ⑤ 栽培終了後の株は放置せずに抜き取り、すみやかに処分する。
- ⑥ 施設周辺および圃場内外の野生寄主植物(テリミノイヌホオズキ等)は除去する。
- ⑦ 発生が確認された地域では、定期的にベイト剤(防除技術センターから配布可能)の散布を行い、成虫の密度低減を図る。



(果実残渣等をビニール袋に入れて約1か月程度密閉処理後、廃棄)

図3 残渣物のビニール袋による密閉処理法

4. 未発生地域への被害拡大防止対策

- ① 発生地(沖縄本島)から収穫物を持ち込む場合は、被害果実が無いか確認するなど、慎重に行う。
- ② 疑わしい被害果実を発見したら放置せず、ビニール袋などに密封し、すみやかに最寄りの県関係機関に届ける。

5. その他

ナスミバエの発生、防除等に関して、さらに詳しいことは、下記関係機関までお問い合わせ下さい。

病虫害防除技術センター	: 098-886-3880
病虫害防除技術センター宮古駐在	: 0980-73-2634
病虫害防除技術センター八重山駐在	: 0980-82-4933
北部農林水産振興センター	: 0980-52-2752
中部農業改良普及センター	: 098-894-6521
南部農業改良普及センター	: 098-889-3515
宮古農林水産振興センター	: 0980-72-2552
八重山農林水産振興センター	: 0980-82-3043
農林水産部営農支援課	: 098-866-2280